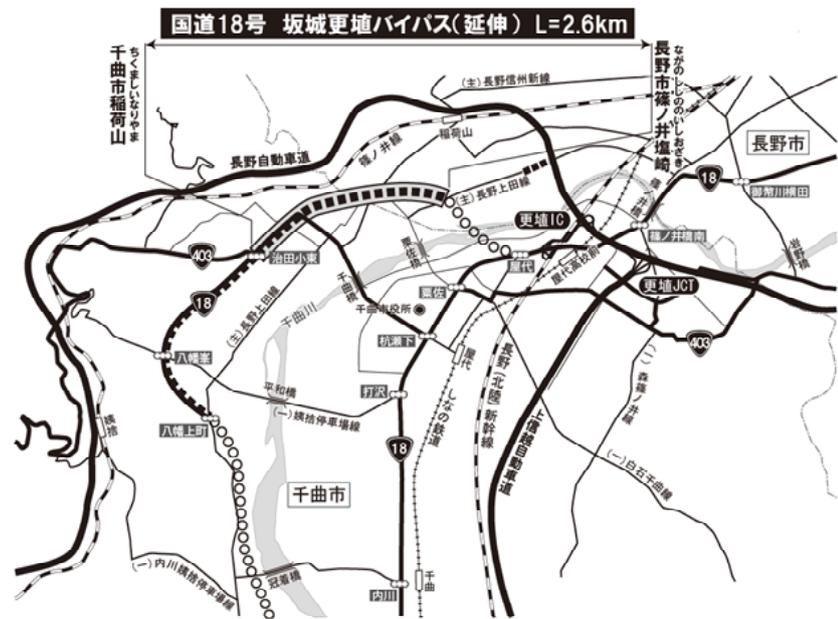


再評価結果（平成25年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名：一般国道18号坂城更埴バイパス（延伸）	事業区分：一般国道	事業主体：国土交通省 関東地方整備局	
起終点：自：長野県千曲市稲荷山 至：長野県長野市篠ノ井塩崎		延長：2.6 km	
事業概要 国道18号は、群馬県高崎市を起点とし、長野県上田市、長野市を経て新潟県上越市に至る延長約190kmの主要幹線道路である。坂城更埴バイパス（延伸）は、国道18号および周辺道路における交通渋滞の緩和、交通事故の減少、救急医療施設へのアクセス性向上を目的として計画された事業である。			
H20年度事業化	S60年度都市計画決定	H22年度用地着手	H一年度工事着手
全体事業費	約69億円	事業進捗率	17%
計画交通量	8,100～15,200台/日		
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 2.5	総費用 (事業全体) 58/70億円	総便益 (事業全体) 173/173億円
	(残事業) 3.0	事業費：48/60億円 維持管理費：9.6/9.6億円	走行時間短縮便益：166/166億円 走行経費減少便益：4.3/4.3億円 交通事故減少便益：2.7/2.7億円
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=2.3～2.8（交通量±10%） 事業費：B/C=2.3～2.8（事業費±10%） 事業期間：B/C=2.4～2.6（事業期間±1年）			
【残事業】 交通量：B/C=2.7～3.4（交通量±10%） 事業費：B/C=2.8～3.3（事業費±10%） 事業期間：B/C=2.9～3.1（事業期間±1年）			
事業の効果等 (1) 交通混雑の緩和 ・国道18号（現道）の損失時間は、141千人時間/年キロであり、全国平均（26千人時間/年キロ）の約5倍。 ・坂城更埴バイパス（延伸）の整備により、現道の交通の転換が図られ、国道18号（現道）の渋滞緩和が見込まれる。 (2) 安全安心な通行の確保 ・国道18号（現道）の死傷事故率は110.6件/億台・kmであり、全国平均（102.0件/億台・km）の約1.1倍。 ・坂城更埴バイパス（延伸）の整備により、現道の交通の転換が図られ、交通事故の減少が見込まれる。 (3) 救急医療施設へのアクセス向上 ・千曲坂城消防本部は病院収容所要時間が30分以上の割合が7割を占める。 ・坂城更埴バイパス（延伸）の整備により、救急医療施設へのアクセス性が向上し、救命率の改善が見込まれる。			
関係する地方公共団体等の意見 長野県知事の意見：一般国道18号「坂城更埴バイパス（延伸）」は、千曲市街地の慢性的な交通渋滞の緩和や道路交通の安全性・快適性の向上による地域活性化などに、大きな効果があるものと期待しています。 事業の継続を図るとともに、積極的な予算確保と一日も早い完成に向けた事業推進を強く要請します。			
事業評価監視委員会の意見 事業の継続を承認する。			
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・平成22年3月に当該事業の先線の上田坂城バイパス（上田市小泉～埴科郡坂城町南条：延長2.3km）が暫定2車線で供用。			
事業の進捗状況、残事業の内容等 ・平成22年度より用地取得に着手。今後も用地取得の促進を図り、早期完成を目指す。			
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 ・用地の取得は33%（平成24年3月末現在）完了。今後も用地取得の促進を図り、早期完成を目指す。			
施設の構造や工法の変更等 ー			
対応方針 ：事業継続			
対応方針決定の理由 以上の事業の効果及び進捗状況、関係する地方公共団体等の意見、事業評価監視委員会による審議を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。			

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。